

第4回
「借金王ランキング」
調査

2026 年8月

あなたの会社の **e-審査部**
リスクモンスター株式会社
<https://www.riskmonster.co.jp>

■ 調査の概要

1. 調査名称

第4回「借金王ランキング」調査

2. 調査方法

決算書の分析結果に基づく調査

3. 調査対象決算期

2026 年6月1日時点で開示されていた 2025 年4月期決算以降の最新連結決算

4. 調査対象企業

金融機関(銀行、証券会社、保険会社等)を除く、決算短信提出企業

5. 調査対象企業数

3,056 社

1. 調査結果

[1] 「借金王ランキング」調査／ランキング結果

上場企業の決算短信(金融機関を除く)の記載に基づき有利子負債を算出した結果、「借金王ランキング」の1位は「トヨタ自動車」(有利子負債 43 兆 2,054 億円)であった。次いで、2位に「ソフトバンクグループ」(同 24 兆 6,851 億円)、3位に「日本電信電話」(同 15 兆 7,116 億円)がランクインし、以下4位「本田技研工業」(同 13 兆 4,798 億円)、5位「三菱 HC キャピタル」(同9兆 1,824 億円)、6位「日産自動車」(同8兆 7,522 億円)、7位「東京電力ホールディングス」(同6兆 6,120 億円)の順となった。

2023 年に実施した第3回調査との比較では、トップ 20 のうち 17 社が共通してランクインしており、上位6社は前回と同順位であった。借入金の多い企業は、一時的に増加しているわけではなく、継続的に多額の有利子負債を抱えている企業が多いことが分かる。

トップ 20 企業の業種としては、通信業が4社、自動車製造業、総合リース業が3社ずつ、電気業、鉄道業、総合商社が2社ずつランクインしており、通信業、電気業、鉄道業といったインフラ整備などに大規模な設備投資を必要とする装置産業において、多額の資金調達が生じている様子がうかがえる。業種ごとの性質は、売上高規模と有利子負債の比較にも表れており、総合リース業や鉄道業、電気業、通信業において、有利子負債が年商以上の水準を有する傾向が強く表れている。(図表A)

トップ 20 における前期からの有利子負債増減としては、増加が 18 社、減少が2社となっており、ランキング上位企業については、以前から有利子負債額が多い上に、直近でその残高をさらに積み上げている企業が大半を占めていることが読み取れる。(図表B)

上位企業における借入増加要因を見ると、各社の事業規模や事業構造、成長投資の内容が影響していることが分かる。1位のトヨタ自動車は、売上高 50 兆円と国内企業の中でも突出した事業規模を有しており、「電気自動車(EV)やハイブリッド車(HV)のための設備増強」に加えて「金融事業における借入の増加」などが有利子負債増加の主な要因となっている。ソフトバンクグループおよび日本電信電話では「AI 事業への投資」や「データセンターの拡充」など、大規模な成長投資が有利子負債増加の要因として考えられる。このように、上位企業の有利子負債の規模は、単純に借入への依存度を示すものではなく、本業の事業規模や金融事業の有無、成長投資の規模など、各社の事業構造の違いが反映されているといえる。

なお、トップ 100 については、図表Cにまとめた。(図表C)

[2] 「借金王ランキング」調査／上位企業 安全性分析

借金王ランキングトップ 20 の安全性について調査するために、「現預金回転期間(現預金÷月商)」、「借入依存度(総借入÷総資産×100)」、「自己資本比率(純資産÷総資産×100)」を算出し、リスクモンスターの倒産確率分析において高リスクとなる水準「現預金回転期間=1か月未満」、「借入依存度=50%超」、「自己資本比率=20%未満」と比較したところ、高リスク水準に該当する企業は、20 社中6社のみであった。

「借入依存度」と「自己資本比率」において、高リスク水準に該当している「三菱 HC キャピタル」と「東京センチュリー」は、ともに総合リース業であり、リース用の資産を自ら購入し、その購入資金を借入等で調達する事業特性から、事業規模の拡大に伴って借入金が過大となりやすい背景を有している。

以上のように、借金王ランキング上位企業は、有利子負債額としては多いものの、現預金の保有状況や財政バランスの観点から分析すると、財務安全性に問題がある企業は少ないことが読み取れる。

また、借金王ランキングトップ 20 について、「現預金回転期間」、「借入依存度」、「自己資本比率」を前期と比較したところ、「現預金回転期間」と「借入依存度」については良化した企業が半数以上であり、3つの指標がす

べて悪化したのは 20 社中 1 社に留まっていることから、有利子負債が増加している中でも、財務状態の安全性が大きく損なわれる企業は少なく、健全な水準が概ね保たれていることが分かった。(図表D)

[3] 「借金王ランキング」調査／収益力ランキング

上場企業の収益力を測る指標として、「EBITDA」、「営業キャッシュフロー」を集計したところ、借金王ランキングトップ 20 のうち 11 社が EBITDA ランキングにランクインし、13 社が営業キャッシュフローランキングにランクインする結果となった。借入により調達した資金を事業に投下してリスクテイクすることで、より多くのリターンを獲得している状況が読み取れる。(図表E、図表F)

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費

2. 総評

企業が借金を行う目的は、事業拡大と運転資金確保の2つに大別される。借金は、事業の成長や安定化において重要な役割を果たしている一方で、返済の目途が立たず資金繰りが限界に達すると倒産に至ることから、借金の多寡は倒産リスクに直結するといえる。本レポートは、企業が保有する有利子負債を集計し、安全性・収益性の観点から分析を実施したものである。

今回の調査では、借金王ランキングトップ 20 のうち 18 社において、前期から有利子負債が増加する結果となったが、安全性指標をみると、高リスクとなる水準の企業は少なく、前期との比較でも半数程度の企業で改善がみられた。また、トップ 20 の過半数が EBITDA ランキングおよび営業キャッシュフローランキングにもランクインしている点からは、これらの企業においては、有利子負債の増加が財務安全性の悪化につながっているのではなく、調達した資金を事業成長に繋げ、収益やキャッシュ創出力を高めていることが分かる。特に、本ランキング1位の「トヨタ自動車」においては、有利子負債が 43 兆円に達しているものの、売上高、営業キャッシュフロー、EBITDA のいずれも上位ランクに位置しており、借入金を事業成長や収益、キャッシュ創出に繋げている様子が表れている。

借入金は、運転資金や赤字の補填に用いられマイナスイメージが強い側面があるが、本来、企業にとっては、自己資本だけでは十分な成長が見込みにくいところを、借入金によって財務レバレッジを利かせ、企業成長を促進させる目的で用いられるものである。借金王ランキングの上位企業においては、日本を代表する企業として、その目的を果たしている企業が多いことが表れているが、中小・零細企業においては、借入を行った結果、十分な事業成長や収益に繋がられず、財務安全性の低下を招く悪循環に陥っているケースも少なくない。自社の借入金が、事業成長の源泉となっているのか、財務安全性のウィークポイントとなっているのか、今回の調査結果を参考に是非とも分析してみたい。

図表A 第4回「借金王ランキング」調査／ランキングトップ 20

順位		変動	企業名	都道府県	業種	有利子負債 (円)	売上高 (円)
今回	前回						
1	1	→	トヨタ自動車	愛知県	自動車製造業	43兆2,054億	50兆6,849億
2	2	→	ソフトバンクグループ	東京都	通信業	24兆6,851億	7兆7,986億
3	3	→	日本電信電話	東京都	通信業	15兆7,116億	14兆4,091億
4	4	→	本田技研工業	東京都	自動車製造業	13兆4,798億	21兆7,966億
5	5	→	三菱HCキャピタル	東京都	総合リース業	9兆1,824億	2兆2,153億
6	6	→	日産自動車	神奈川県	自動車製造業	8兆7,522億	12兆78億
7	9	↗	東京電力ホールディングス	東京都	電気業	6兆6,120億	6兆3,285億
8	8	→	オリックス	東京都	総合リース業	6兆5,379億	3兆3,308億
9	7	↘	ソフトバンク	東京都	通信業	6兆4,845億	7兆386億
10	12	↗	三菱商事	東京都	総合商社	5兆7,469億	18兆9,159億
11	10	↘	三井物産	東京都	総合商社	5兆7,077億	13兆9,952億
12	11	↗	楽天グループ	東京都	インターネット附随サービス業	5兆5,696億	2兆4,965億
13	29	↗	日本製鉄	東京都	鉄鋼業	5兆1,742億	10兆632億
14	15	↗	東日本旅客鉄道	東京都	鉄道業	5兆1,622億	3兆846億
15	14	↘	東京センチュリー	東京都	総合リース業	5兆1,185億	1兆4,576億
16	16	→	武田薬品工業	東京都	医薬品製造業	4兆8,818億	4兆5,057億
17	56	↗	KDDI	東京都	通信業	4兆8,680億	6兆719億
18	49	↗	東海旅客鉄道	東京都	鉄道業	4兆8,059億	2兆62億
19	20	↗	三井不動産	東京都	不動産賃貸業・管理業	4兆6,325億	2兆7,097億
20	13	↘	関西電力	大阪府	電気業	4兆2,666億	4兆566億

※背景色ありは、売上高より有利子負債の方が大きい企業

図表 B 第4回「借金王ランキング」調査／有利子負債前期比 トップ企業比較

順位	企業名	今期有利子負債 (円)	前期有利子負債 (円)	増減 (円)
1	トヨタ自動車	43兆2,054億	38兆7,928億	4兆4,125億
2	ソフトバンクグループ	24兆6,851億	18兆63億	6兆6,787億
3	日本電信電話	15兆7,116億	10兆100億	5兆7,015億
4	本田技研工業	13兆4,798億	11兆4,512億	2兆285億
5	三菱HCキャピタル	9兆1,824億	8兆2,599億	9,224億
6	日産自動車	8兆7,522億	7兆9,856億	7,666億
7	東京電力ホールディングス	6兆6,120億	6兆5,393億	727億
8	オリックス	6兆5,379億	6兆2,827億	2,551億
9	ソフトバンク	6兆4,845億	5兆9,621億	5,224億
10	三菱商事	5兆7,469億	4兆6,170億	1兆1,299億
11	三井物産	5兆7,077億	4兆8,412億	8,665億
12	楽天グループ	5兆5,696億	5兆4,617億	1,079億
13	日本製鉄	5兆1,742億	2兆5,074億	2兆6,667億
14	東日本旅客鉄道	5兆1,622億	4兆9,553億	2,068億
15	東京センチュリー	5兆1,185億	4兆6,875億	4,310億
16	武田薬品工業	4兆8,818億	4兆5,152億	3,665億
17	KDDI	4兆8,680億	4兆320億	8,359億
18	東海旅客鉄道	4兆8,059億	4兆8,137億	▲79億
19	三井不動産	4兆6,325億	4兆4,614億	1,711億
20	関西電力	4兆2,666億	4兆4,977億	▲2,312億

図表 C 第4回「借金王ランキング」調査／ トップ 100

順位	企業名	有利子負債 (円)	順位	企業名	有利子負債 (円)
1	トヨタ自動車	43兆2,054億	51	西日本旅客鉄道	1兆6,362億
2	ソフトバンクグループ	24兆6,851億	52	野村不動産ホールディングス	1兆5,993億
3	日本電信電話	15兆7,116億	53	北海道電力	1兆5,641億
4	本田技研工業	13兆4,798億	54	阪急阪神ホールディングス	1兆4,220億
5	三菱HCキャピタル	9兆1,824億	55	日本ペイントホールディングス	1兆4,218億
6	日産自動車	8兆7,522億	56	イオンフィナンシャルサービス	1兆4,051億
7	ソフトバンク	6兆6,120億	57	東急	1兆3,847億
8	オリックス	6兆5,379億	58	出光興産	1兆3,622億
9	東京電力ホールディングス	6兆4,845億	59	パナソニック ホールディングス	1兆3,483億
10	三井物産	5兆7,469億	60	東京建物	1兆3,438億
11	楽天グループ	5兆7,077億	61	コマツ	1兆3,410億
12	三菱商事	5兆5,696億	61	双日	1兆2,956億
13	関西電力	5兆1,742億	63	近鉄グループホールディングス	1兆2,655億
14	東京センチュリー	5兆1,622億	64	INPEX	1兆2,447億
15	東日本旅客鉄道	5兆1,185億	65	東京ガス	1兆2,096億
16	武田薬品工業	4兆8,818億	66	ルネサスエレクトロニクス	1兆2,065億
17	ソニーグループ	4兆8,680億	67	ANAホールディングス	1兆1,646億
18	住友不動産	4兆8,059億	68	住友化学	1兆1,514億
19	九州電力	4兆6,325億	69	北陸電力	1兆996億
20	三井不動産	4兆2,666億	70	リコーリース	1兆953億
21	住友商事	4兆1,771億	71	NECキャピタルソリューション	1兆908億
22	住友不動産	3兆9,759億	72	光通信	1兆884億
23	イオン	3兆9,675億	73	東京地下鉄	1兆714億
24	九州電力	3兆7,182億	74	キオクシアホールディングス	1兆475億
25	伊藤忠商事	3兆6,727億	75	ヤマハ発動機	1兆443億
26	クレディセゾン	3兆5,828億	76	ソニーグループ	1兆419億
27	三菱地所	3兆5,819億	77	日立製作所	1兆90億
28	東北電力	3兆4,905億	78	旭化成	9,675億
29	みずほリース	3兆3,823億	79	王子ホールディングス	9,559億
30	中国電力	3兆3,044億	80	日本郵船	9,466億
31	中部電力	3兆2,388億	81	レゾナック・ホールディングス	9,466億
32	大和ハウス工業	3兆767億	81	四国電力	9,350億
33	芙蓉総合リース	2兆9,859億	83	麒麟ホールディングス	9,234億
34	ジャックス	2兆8,720億	84	富士フイルムホールディングス	8,949億
35	丸紅	2兆4,099億	85	ダイキン工業	8,831億
36	商船三井	2兆3,185億	85	日本酸素ホールディングス	8,820億
37	クボタ	2兆2,420億	87	三菱重工業	8,762億
38	セブン&アイ・ホールディングス	2兆2,300億	87	日本航空	8,759億
39	ヒューリック	2兆2,112億	89	東レ	8,639億
40	ENEOSホールディングス	2兆1914億	90	川崎重工業	8,611億
41	豊田通商	2兆1,687億	91	日本製紙	8,582億
42	オリエントコーポレーション	2兆736億	92	マツダ	8,337億
43	LINEヤフー	1兆9,619億	93	鹿島	8,331億
44	JFEホールディングス	1兆9,593億	94	キャノン	8,161億
45	三菱ケミカルグループ	1兆8,905億	95	デンソー	8,112億
46	J-POWER	1兆8,819億	96	大阪ガス	7,942億
47	積水ハウス	1兆8,488億	97	東武鉄道	7,889億
48	東急不動産ホールディングス	1兆8,269億	98	飯田グループホールディングス	7,572億
49	JT	1兆6,786億	99	スズキ	7,486億
50	アサヒグループホールディングス	1兆6,441億	100	いすゞ自動車	7,440億

図表D 第4回「借金王ランキング」調査／ランキング上位企業 安全性分析

順位	企業名	現預金回転期間 (か月)		借入依存度 (%)		自己資本比率 (%)	
		今期	前期	今期	前期	今期	前期
高リスク水準		1か月未満		50%超		20%未満	
1	トヨタ自動車	3.0	2.2	40.9	41.4	38.9	39.4
2	ソフトバンクグループ	8.3	6.2	40.6	40.0	33.7	31.0
3	日本電信電話	1.6	0.9	33.6	33.3	21.9	37.7
4	本田技研工業	2.8	2.5	40.2	37.2	36.3	41.0
5	三菱HCキャピタル	1.9	1.7	70.2	70.2	15.3	15.3
6	日産自動車	2.3	2.1	44.2	42.0	26.5	28.6
7	東京電力ホールディングス	1.8	1.6	42.5	43.6	21.9	25.3
8	オリックス	5.2	5.5	36.3	37.3	25.4	24.7
9	ソフトバンク	2.5	2.6	35.0	37.0	25.2	26.5
10	三菱商事	1.2	1.0	23.8	21.5	42.4	47.2
11	三井物産	0.8	0.8	27.4	28.8	43.3	46.2
12	楽天グループ	28.1	32.5	19.3	20.6	4.7	4.7
13	日本製鉄	0.6	0.9	35.3	22.9	41.1	53.9
14	東日本旅客鉄道	1.0	1.0	47.7	48.7	28.3	28.2
15	東京センチュリー	1.8	1.5	70.9	68.3	17.4	17.1
16	武田薬品工業	1.6	1.0	31.5	31.7	47.9	48.7
17	KDDI	2.1	1.9	25.5	24.1	29.3	33.2
18	東海旅客鉄道	2.2	2.6	44.2	46.6	47.2	45.1
19	三井不動産	0.4	0.8	45.9	45.2	33.5	33.2
20	関西電力	2.2	2.6	43.3	46.6	35.5	32.2

※背景色ピンクは、高リスク水準に該当する項目

図表E 第4回「借金王ランキング」調査／ランキング上位企業 営業キャッシュフローランキング

順位	企業名	業種	営業キャッシュフロー (円)
1	トヨタ自動車	自動車製造業	5兆4,729億
2	ソニーグループ	電気機器製造業	1兆9,456億
3	KDDI	通信業	1兆7,889億
4	日立製作所	電気機器製造業	1兆6,681億
5	三菱商事	総合商社	1兆4,900億
6	日本電信電話	通信業	1兆4,852億
7	ソフトバンク	通信業	1兆3,938億
8	オリックス	総合リース業	1兆3,696億
9	本田技研工業	自動車製造業	1兆1,353億
10	伊藤忠商事	総合商社	1兆1,318億
11	イオン	専門サービス業	1兆1,266億
12	武田薬品工業	医薬品製造業	1兆414億
13	三井物産	総合商社	9,529億
14	三菱重工業	総合重工業	9,426億
15	住友商事	総合商社	8,135億
16	日産自動車	自動車製造業	7,947億
17	東日本旅客鉄道	鉄道業	7,651億
18	東海旅客鉄道	鉄道業	7,482億
19	スズキ	自動車製造業	7,175億
20	日本製鉄	鉄鋼業	7,169億

※背景色ありは、借金王ランキング上位20の企業

図表F 第4回「借金王ランキング」調査／ランキング上位企業 EBITDAランキング

順位	企業名	業種	EBITDA (円)
1	ソフトバンクグループ	通信業	8兆2,005億
2	トヨタ自動車	自動車製造業	6兆1,587億
3	日本電信電話	通信業	3兆4,972億
4	ソニーグループ	電気機器製造業	2兆6,282億
5	KDDI	通信業	1兆7,874億
6	日立製作所	電気機器製造業	1兆5,900億
7	INPEX	石油・天然ガス開発業	1兆4,868億
8	伊藤忠商事	総合商社	1兆3,318億
9	本田技研工業	自動車製造業	1兆2,362億
10	キオクシアホールディングス	半導体製造業	1兆1,832億
11	JT	たばこ製造業	1兆629億
12	ソフトバンク	通信業	1兆506億
13	東海旅客鉄道	鉄道業	1兆361億
14	デンソー	輸送用機械器具製造業	9,306億
15	スズキ	自動車製造業	9,007億
16	三井物産	総合商社	8,980億
17	信越化学工業	化学製品製造業	8,782億
18	三菱商事	総合商社	8,777億
19	オリックス	総合リース業	8,610億
20	東日本旅客鉄道	鉄道業	8,430億

※背景色ありは、借金王ランキング上位20の企業